

**【図書紹介】『にほんごで文化体験』 村田晶子監
修、長谷川由香・池田幸弘・竹山直子著 / アルク
116ページ 1,800円＋税 2021年2月発行**

著者	長谷川 由香
出版者	法政大学グローバル教育センター日本語教育プログラム
雑誌名	多文化社会と言語教育
巻	1
ページ	67-67
発行年	2021-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10114/00024433

doi: [info:doi/10.50921/jlp.1.0_67](https://doi.org/10.50921/jlp.1.0_67)

【図書紹介】

『にほんごで文化体験』

村田晶子監修、長谷川由香・池田幸弘・竹山直子著／アルク

116 ページ 1,800 円＋税

2021 年 2 月発行

本書は大学や日本語学校、地域の日本語教室などにおいて、国際交流や日本語教育に関わる教職員、ボランティア関係者が日本文化体験を実施する際に活用することを目指した教材である。本学グローバル教育センターの短期日本語日本文化プログラムで使用されている教材をもとに、検討を重ねて作成したものである。

日本文化体験の授業を実施するためには活動の選定、予算の調整、施設の予約、日本語のレベルが異なる学習者への配慮などさまざまなことを考える必要がある。また、学習効果を高めるためには単に体験させるだけでは不十分で、事前活動や事後活動のデザイン、教材の作成、指導方法の決定などを行わなければならない。関心はあるものの実際に行うのは難しいと感じる教員も少なくない。そこで、本書ではさまざまな教育機関で実施しやすい文化体験のテーマを選び、予算的にも無理のない活動を多く取り入れている。また、学習効果を高めるために学習者が主体的に行える活動の方法を多数提案し、日本語クラスのみならずさまざまな教育現場や交流イベントで活用できる汎用性の高い内容となっている。

本書は次の 7 章から構成されている。1 章「街を歩く」、2 章「食を楽しむ」、3 章「地域の文化・産業を学ぶ」、4 章「地域の人と交流する」、5 章「災害に備える」、6 章「伝統文化に触れる」、7 章「季節のイベントを体験する」。それぞれの章の構成は、「話してみよう」、「ウォームアップ」、「活動の前に（事前活動）」、「やってみよう（現地活動）」、「活動を終えて（事後活動）」、「語彙リスト」である。また、付録「活動のための日本語」では、文化体験に役立つ日本語の機能と表現をまとめて示している。さらに、ダウンロード版「教師用ガイド」では、授業の進め方やコツのほか、初級から上級レベルの活動例、オンラインを利用した活動例なども紹介し、初めて文化体験授業を行う教師でも十分効果のある活動が指導できるよう工夫されている。

学習者にとって、言語使用と文化体験が融合したプログラムは、日本語の運用力を高めるだけでなく、人との交流の機会、社会や文化を深く理解する貴重な機会となる。また、所属大学の短期プログラムには毎回 100 名を超える学生ボランティアが参加しており、留学生との交流や日本語支援は、異文化理解、日本語・日本文化の見つめ直し、同世代の若者同士の友情を育む上で重要な機会となっている。本書がさまざまな教育現場や国際交流の場で活用され、ことばと文化の学び、および相互学習につながることを期待される。

（紹介者 長谷川由香）